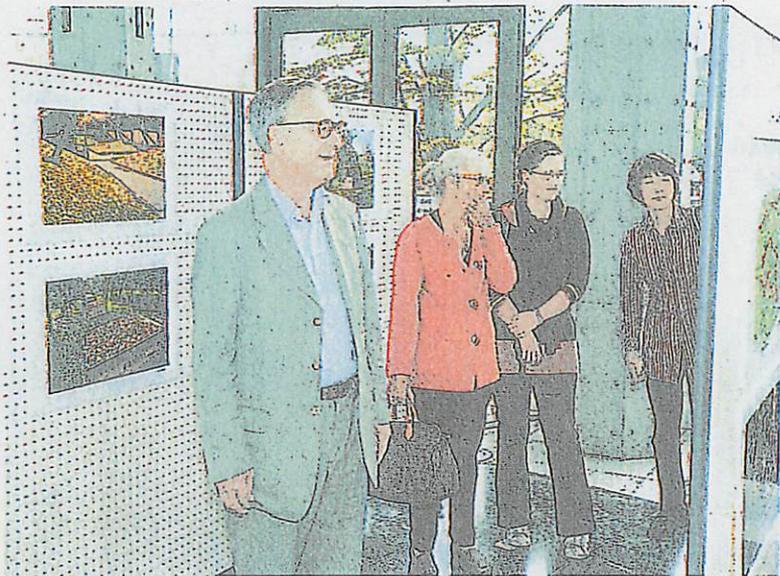


# まちなかで仏文化発信

## 弘大生、出店など企画運営

弘 前

まちなかをキャンパスに見立て、外国文化を情報発信する弘前大学主催の「弘前×フランス」プロジェクトが、21日から1週間の日程で始まった。弘前大学



アン・ノーシュ村を紹介した展示パネルを見学するラヴェルデティエンヌ村長ら

部の学生が出店や講演会などを運営し、弘前市どよりの深いフランスの都市や文化を紹介する。

21日は同市土手町の中三弘前店1階カレリアで、オーピングセレモニーを開いた。会場には、市とシールドル協定を結んでいるブロン・アン・ノーシュ村や弘大と交流のあるボルドー市の人々の暮らしなどを紹介したパネルを展示。来日中のアン・ノーシュ村のジャンミシエル・ラヴェルデティエンヌ村長らが開幕に立ち会った。

プロジェクト期間中は、企画に協賛した飲食店などでフランスにちなんだメニュー提供や、フランス人技術者によるシールドル講演会を行う。26日は土手町の蓬菜広場をフランス風市場に彩り、学生たちが模擬店やワークショップなどを出店する「フランス日和」を開

催する。

プロジェクト代表を務める同大文学部の熊野真規子准教授は「学生が現地を取材して得た情報を基に、異国文化を市民に知ってもらう環境をつくった。弘前とかかわりのある海外都市を身近に感じてほしい」と話している。(秋元宏宣)